

- 1 派遣期日 令和4年11月25日(金)
2 研修先 学校名 東京都瑞穂町立瑞穂第一小学校
所在地 東京都西多摩郡瑞穂町箱根ヶ崎2287
Mizu1-ishiyama@bz04.plala.or.jp

3 研修内容

公開授業・研究発表・講演会

研究主題「正確に理解し主体的に読む児童の育成」～ICTを活用した文学的文章の学習を通して～
講演 「子どもが育つ！読みの授業の在り方・深め方」
国土館大学 体育学部こどもスポーツ教育学科教授 井上 義弘 先生

(1) 公開授業

- 第4学年 教科名 国語科 指導者 青山 祐二 先生
○学習内容 单元名 読み取ろう！伝え合おう！ファンタジーの世界 教材名「初雪のふる日」
○本時の展開

- ① 学習課題をつかむ。
・前時までの学習の流れをまとめたパワーポイントと作成したエクスチャートを提示し、振り返りながら本時の課題を確認していた。
不思議な世界からもどることができた女の子について考えよう。
・サイドラインを引いた全文掲示を振り返り、女の子の気持ちの変化を確認した。
② 「なぜ女の子は助かることができたのだろうか」自分の考えをまとめる。
・自分でエクスチャートに書き込んだことを基に考え、ノートに自分の言葉で書かせた。
③ 自分の考えをグループ→全体で共有する。
・グループ内の共有は、タブレットでノートを撮影したものを teams へ投稿する。学習グループ間で、友達の考えにコメントを送り合う。
・全体での共有は、グループ間で出た考えを発表する。
Ⓜ おばあさんのおまじないを覚えていたから。
Ⓜ 春の植物の声を聴くことができたから。
Ⓜ 助かるために一生懸命考え、なぞなぞが思い付いたから。
④ 本時の学習をまとめる。
・友達の考えを聞いて、考えたことを振り返りに書かせた。

- ① 教室の掲示物や児童のノート、本時の授業展開などから、本単元の1時間1時間を丁寧に指導されている。
② 教室には、全文が掲示されていた。そこには、登場人物の心情ごとに色分けされた短冊や行動は直線、発言は波線などのサイドラインが書き込まれていた。
③ 短冊は、サイドラインを基に根拠をもって考え、全て児童の言葉で書かれていた。
④ 課題解決の場面では、エクスチャートを基に考えるよう促していた。前時を振り返る時間を充分確保されていたため、一人一人が自分の考えを書くことができていた。
⑤ 共有の場面では、teams を活用することで、短時間でグループの友達の考えを読み、コメントすることができていた。
⑥ タブレットの操作にも慣れている児童が多いようだが、「ノートに書く場面」と「タブレットを活用する場面」に分けることで考える時間が充実していた。

(2) 研究発表

○仮説

『語句の意味、根拠をもって読む方法を指導し、読みの目的がはっきりした授業を展開し、読書環境を充実させれば、正確に理解し主体的に読む児童の育成をなされるであろう。』

○研究主題に迫るための取組

児童の実態調査から、語彙力の個人差が大きいこと、叙述をもとに読み取ることが苦手、また「国語科」に苦手意識のある児童が多かった。そこで、次の5つの手立てを実践した。

① 語彙の指導

6年間、同じ国語辞書を活用し、調べた言葉には付箋を付ける。また、辞書の例文を視写することで活用の仕方を学習する。また、言葉ノートの作成、語彙プリントの活用や語彙を広げる

学習として、イメージマップや語句イズ（語句集）などを行っている。

② 根拠をもって読む方法の指導

- ア サイドライン
- イ 気持ちチャート図の活用
- ウ エックスチャート
- エ 人物相関図の作成

③ 読みの目的が分かる授業

授業の中で、児童が「なぜ読まなければならないのか」その目的を明確に示すことで、「主体的に読む児童」の育成になると考えた。

- ア 設定した言語活動のために
- イ 身に付けたい力のために
- ウ 自分の考えを形成するために
- エ 見通しと目的をもつために

④ 手立てとしての ICT 活用

- ア 動画による叙述の追体験
- イ 動画や写真撮影による記録と比較
- ウ 考えの交流 teams のチャット機能を活用 他学年とのオンライン交流
- エ 作業の効率化 jamboard の活用
- オ 意見の集約・提示 Forms テキストマイニングの活用

⑤ 読書環境の充実

- ア 図書ボランティアによる読み聞かせ
- イ 瑞穂一小おすすめ本リストの作成
- ウ 読書貯金カードの作成
- エ 並行読書
- オ 読書ファイル（読書活動に関するワークシートを6年間保存する）

(3) 講演「子どもが育つ！読みの授業の在り方・深め方」 井上 義弘 先生

① 学校における国語教育

指導の重点は、「読む・書く」にある。情緒力を身に付けるには「読む」ことが基本となり、論理的思考力の育成には「書く」ことが中心となる。

② 「読みの目的がわかる授業」づくり 「正しく読む」→「読み深める」へ

- ・「正しく読む」読み取り…語意を理解し、叙述を基に正確に読み取る。
- ・「読み深める」読み解く…様子や心情を関連付け、自分の考えをもつこと。

③ 「読み深める」ための指導

- ・目的をもって読み進めることが大事である。「個の課題づくり」から共通の課題に発展させ、「読み」のモチベーションを高める。更に、話し合い活動を取り入れることで読みの深まりや広がりをもたせるようにする。
- ・自分の考えをもたせる指導をする。繰り返し発問し、ノートに「今の考え」を書かせる。また、児童の「思う」は全て認め、友達との交流から学んだことも考えとして認める。

(4) 感想

① 授業では、多様な解釈ができる作品であるため、「自分の考えを書くことができるのだろうか。」

とっていたが、一人一人の感じ方の違いを大切にしながら読み進めたことで、自信をもって自分の考えを表現することができていた。また、友達との交流では、感じ方の違いをどのような言葉、叙述を手がかりにしたのかという考えを示し合うことで、多様な角度から物語を読み深めていた。また、国語科においても ICT の活用が効果的であることが分かった。授業を振り返るときや交流の場面など、授業のねらいや児童の実態に合った方法で、更に活用していけるようにしたい。

② 研究発表では、根拠をもって読む方法の指導として、気持ちチャートやエックスチャートなどの活用方法について説明があった。思考ツールを使うことで、登場人物の気持ちや行動を整理することができ、学習の内容を振り返る際にも効果的であることが分かった。

③ 講話では、正しく読むために適切な学習課題や発問を意識化させること、自分の読み取りを伝える力を伸ばしていくことが大切であることが分かった。授業の中で自分の考えを表現し、友達とつなげたり、見直したりして、自分の考えを確かなものにしていく十分な時間を確保できるように授業展開を考えていきたい。